

中間検査チェックシート 共通 NO-1

建 物 概 要	1	建築確認番号	
		建築確認年月日	平成 年 月 日
	2	建築場所	
		建築主氏名	
	3	工事監理者	資格 一級・二級・木造 建築士 番号
		監理者氏名	電話
	4	工事施工者	登録 年 知事・大臣 一般・特定 番号
		管理者氏名	電話
工事監理の状況			
検査年月日	平成 年 月 日	検査員職氏名	

集 団 規 定

検査項目	内 容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告	結 果			
		施 工 者	監 理 者		一次 判定	判定 月日	二次 判定	判定 月日
敷地の安全性 (法19条)	1.がけ又は擁壁の安全			A・B・C				
	2.敷地の高低差			A・B・C				
敷地と道路の 関係(法42条 、43条) 県条例等	1.前面道路の幅員			A・B・C				
	2.接道長さ			A・B・C				
	3.敷地内通路			A・B・C				
敷地面積 容積率 建ぺい率 (法52条、53条 54条の2)	1.敷地形状の確認			A・B・C				
	2.確認申請図面との照合			A・B・C				
外壁後退等 (法54条)	1.建物配置の確認			A・B・C				
道路斜線等 (法55条、 56条、 58条)	1.各部分の高さの確認 (立面図等との照合)			A・B・C				
	2.緩和規定適用の場合の後 退部分の外構制限及び前 面道路との高低差等			A・B・C				
確認表示板の 設置(法89条)	1.確認表示板の設置及び記 載内容の確認			A				
工事現場の危 害の防止	政令第136条の2の7～ 第136条の8 仮囲い、防護ネット等			A				
その他								

太線枠内は記入しないでください

(鉄筋コンクリート造) NO-2

検査項目		検査内容	確認日付		検査方法 A:目視検査 B:計測検査 C:監理者報告	結果			
			施工者	監理者		一次判定	判定月日	二次判定	判定月日
全体	全体	1.柱、はり、壁、スラブの位置			A・C				
共通	共通	1.鉄筋の材質			C				
		2.かぶり厚さ			A・C				
		3.コンクリートの調合及び圧縮強度			C				
		4.型枠支柱存置期間			C				
		5.コンクリート打設後の養生			C				
地盤・基礎	支持地盤	1.根伐り底の確認、地耐力等			C				
	基礎形状	1.基礎の種類、くいの工法、長さ、径、位置、杭頭補強、偏心等			C				
		2.べース寸法、主筋の径、本数、位置、偏心による補強等			C				
地中ばり	1.断面寸法、主筋の径、本数、位置、定着方法、継手(位置、長さ)、あばら筋の位置、径、間隔、形状、偏心による補強等			C					
柱	主筋	1.柱径寸法主筋の径、本数、配置(方向)			A・B・C				
		2.二段筋の位置(間隔)、結束			A・B・C				
		3.柱間筋の止まり高さ、各階止まり主筋の定着、主筋の出隅のフック、主筋のほりに対する定着			A・B・C				
	継手	1.主筋の継手位置、長さ、主筋の出隅のフック			C				
	帯筋	1.鉄筋径副帯筋共、間隔及び形状			A・B・C				
2.主筋絞り部、折曲げ部の帯筋補強				A・B・C					
3.仕口部分の帯筋の配置				A・B・C					
4.第一帯筋と柱間筋束帯筋の位置				A・C					
5.帯筋のフック形状、結束				A・B・C					
はり	主筋	1.断面寸法、主筋の径、本数及び位置			A・B・C				
		2.二段筋間隔の確保、長さ			A・B・C				

	定着・継手	1.主筋の定着長さ、位置			A・B・C				
		2.継手の位置と長さ			A・B・C				
		3.主筋出隅部の継手末端フック			A・B・C				
	ふかし、貫通孔補強筋	1.補強方法が適切か			A・B・C				
		2.貫通孔補強筋(評定品の仕様)			A・B・C				
	あばら筋	1.あばら筋(副あばら筋共)の径と間隔			A・B・C				
2.あばら筋のフック形状、位置及び結束				A・B・C					
ス ラ ブ 庇 及 び 階 段 を 含 む	スラブ筋	1.スラブ厚、鉄筋の径と間隔			A・B・C				
		2.主筋配置(短辺・長辺)、バンド配筋、支持条件			A・B・C				
		3.上端筋と下端筋の位置			A・B・C				
	定着・重ね継手	1.定着の長さ与方法(はり定着、隣接スラブ定着、段差スラブ定着)			A・B・C				
		2.片持ちスラブの定着			A・B・C				
		3.継手の位置と長さ			A・B・C				
	補強筋等	1.床スラブの出入隅部の補強			A・B・C				
		2.開口部補強			A・B・C				
		3.階段部配筋と定着、補強			A・B・C				
壁	壁筋	1.壁厚寸法、鉄筋の径、間隔			A・B・C				
	定着・重ね継手	1.定着確認(はり、柱、スラブ、壁定着)			A・B・C				
		2.重ね継手の位置と長さ			C				
	補強筋等	1.開口補強			C				
		2.スリット(完全・部分)の位置、形状及び配筋			C				

その他	設備配管等	1.設備配線管の配置			A・C				
	ガス圧接継手	1.欠陥の有無			A・C				
	特殊鉄筋継手	1.評定、認定工法の確認			A・B・C				
不具合の処置									
添付図書									
合否判定	一 次 判 定	合格 不合格			二 次 判 定	合格 不合格			

太線枠内は記入しないでください

中間検査チェックシートの使い方

(1) 「中間検査チェックシート」の構成

「中間検査チェックシート」は、各構造に共通の部分（主に集団規定）と、代表的な構造として軸組工法、枠組壁工法、鉄骨造、鉄筋コンクリート造の構造別の部分（単体規定・構造規定）からなる。又、各チェックシートの後に各構造別の項目解説が記載されている。

(2) 中間検査チェックシート等の位置付け

中間検査チェックシート等は、建築主事等が実施する現場検査において、建築基準関係規定に適合しているかどうかの判断をする際の参考資料として用いるものとする。

又、工事監理者等にとっては、中間検査前の自主検査の際の参考として、あるいは中間検査申請書第四面の「工事監理の状況」欄を記入する際に活用されたい。

なお、巻末に資料2「工事監理報告書の書き方例 木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造」を付けてあるので、併せて参照されたい。

(3) 中間検査チェックシートの記入方法等

このチェックシートは、建築主事が現場で検査を実施する際の主要な検査項目についてまとめたものである。

以下に各構造に共通する記載内容及び記載方法を示す。

検査項目及びその内容については、各構造別「中間検査チェックシート及び検査項目解説」を参照のこと。

工事施工者及び工事監理者の検査日付欄については、工事施工者及び工事監理者が中間検査に先立って自主的に検査する場合にも使用できるように設けたものである。

検査方法は次の3つの方法を単独または適宜組み合わせ用いることとし、各検査項目の欄に検査項目の記号を表示している。

A：目視による検査（特に計測機器等は用いない）

B：スケール等の計測機器を用いる検査

C：工事監理者の報告による確認

現場において検査員は、該当するものに を付けるものとする。

検査の結果は、一次と二次に分かれている。

・一次判定

一次判定とは、建築物等が確認申請書及びその添付図書との照合（設計図書の補助を含む）により、建築基準関係規定に適合していることを判定することをいう。

建築主事等は検査項目ごとの検査の結果、合格（前記 a に該当）と判定した場合は、適用される項目について一次判定欄に を記入し、日付け欄に月日を記入する。

上記以外の場合は、一次判定欄に×を記入し、日付け欄に月日を記入する。

・二次判定

二次判定とは、建築物等が確認申請書及びその添付図書等との照合のほかに報告、手続き等の審査による判定をすることをいう。

建築主事等は検査項目ごとの検査の結果、報告・手続きの上合格（前記 b に該当）と判定した場合には、二次判定欄に を記入し、日付け欄に月日を記入する。

建築主事等は検査項目ごとの検査後、相当の猶予期間のうちに検査指摘事項の改善が見られない場合は不合格（前記 c に該当）とし、二次判定欄に×を記入し、日付け欄に月日を記入する。

検査において適用されるが、チェックシートの検査項目が用意されていない項目については、その他の項目欄等に記入する。

検査において適用されないチェックシート項目については、結果欄に斜線を引き、未記入と区別する。

シート末尾の「不具合の処置」の欄には、不具合の処置方法について記

入する。

シート末尾の「添付図書」の欄には、報告を受けた添付図書・資料の種類を記入する。

シート末尾の「合否判定」の欄は、各検査項目の結果が一次判定又は二次判定においてすべて となった場合、「合格」と記入するものとする。

シート末尾の「合否判定」の欄が、一次判定又は二次判定のいずれかにおいて「合格」とされたものにあつては、中間検査合格証を交付する。

共通チェックシート検査項目解説

1. 中間検査留意事項

- ・ 工事監理者が、工事着工前に選任され、設計図書どおりに施工されているかを確認しているか。
- ・ 建築確認後に計画変更があった場合、計画変更確認等の手続きがされているか。
- ・ 工事監理の状況の報告（中間検査申請書第4面）が的確に記載されているか。

2. 検査項目の解説

- ・ 擁壁の設置有無及び申請手続きがなされているか確認する。
- ・ 法第19条第1項～4項までについて確認図書と整合しているか確認する。
- ・ 県条例第5条、第7条、第8条及び第43条について確認図書と整合しているか確認する。
- ・ 政令第128条、第128条の2及び条例第39条について確認図書と整合しているか確認する。
- ・ 各部分の高さが立面図等と整合しているか確認する。
- ・ 道路斜線の緩和等、高さの緩和を適用している場合は、その条件のとおり確認する。
- ・ 木造で高さが13m若しくは軒の高さが9mを超えるもの。
- ・ 木造以外で2以上の階数を有するもの。

上記の建築物については、政令第136条の2の7から第136条の8の規定が適用されるので、仮囲い、防護ネット等適切な措置がなされているか確認する。

鉄筋コンクリート造チェックシート検査項目解説

検査項目の解説

鉄筋コンクリート工事の中間検査では、構造耐力上で重要な部位が確認申請書及び添付図書のとおり施工されているかを重点的に検査する。

全 体

- ・ 柱、はり、壁、スラブの位置を確認する。

共 通

- ・ 鉄筋の材質等は、圧延マークや色別表示による確認方法もあるが、一般的には、工事監理報告によるミルシートで確認する。
- ・ かぶり厚さについては、政令第79条による規定で明確な数値が記載されているので、これが確保されているか確認する。
- ・ コンクリートの調合及び圧縮強度については、工事監理報告による配合報告書及び圧縮強度試験結果などで確認する。

印欄については、工事施工者の管理のものであるから、工事監理者等よりヒアリングで対応する。

地盤・基礎

支持地盤

- ・ 工事監理報告により、根伐り底、土質、地耐力等を確認する。

基礎形状

- ・ 工事監理報告により、基礎の種類、配筋の状況、型枠組立状況を写真で確認する。
- ・ 杭の工法（特殊な杭の工法の場合は認定番号等）、長さ、径、位置、杭頭補強、杭の芯ずれ等を確認する。
- ・ 工事監理報告により、ベース寸法、主筋の径、本数、位置、芯ずれによる補強等を確認する。また、配筋状況、型枠組立状況等を写真で確認する。

地中ばり

- ・ 工事監理報告により、断面寸法、主筋の径、本数、位置、定着方法、継手、あばら筋の位置等を確認する。また、配筋状況、型枠組立状況等を写真で確認する。

柱

既施工部分については、書類、ヒアリング等で確認する。

主 筋

- ・ 柱筋リストで断面寸法、鉄筋径、本数、配置方向等を確認する。特に柱筋の配置がX、Y方向を取り違えている場合があるので注意する。
- ・ 柱筋リストで二段筋の位置、間隔、結束の状況を確認する。
- ・ 架構詳細図、仕様書等で柱頭鉄筋の止まり位置、各階止まり主筋の定着、出隅のフック、はりに対する定着等を確認する。

継 手

- ・ 架構詳細図・仕様書等で継手位置、長さ、出隅のフックを確認する。

帯 筋

- ・ 柱筋リスト、架構詳細図、仕様書等で鉄筋径、間隔、形状を確認する。
- ・ 架構詳細図、仕様書等で絞り部、折曲げ部、仕口部分、第一帯筋と柱頭拘束帯筋の位置等を確認する。
- ・ 仕様書等で、フックの形状を確認する。

はり

主 筋

- ・ はり筋リストで断面、径、本数、位置等を確認する。

- ・ 二段筋の上がりすぎや間隔の確保、長さ等を確認する。

定着・継手

- ・ 柱への定着、継手の位置を確認する。
- ・ 主筋出隅部の重ね継手末端部のフックを確認する。

ふかし、貫通補強筋

- ・ ふかしの補強方法は適切か。貫通孔補強筋が適切にされているか確認する。また既製の評価品の使用が多いので評価番号、使用方法等要件を満たしているか確認する。

あばら筋

- ・ はり筋リストで径、間隔、フック形状、位置及び結束状況を確認する。

スラブ（庇及び階段を含む）

スラブ筋

- ・ スラブ筋リストで厚さ、径、間隔等を確認する。
- ・ 主筋が短辺方向に配置されているか、バンド位置、支持条件が適切か確認する。
- ・ 上端筋と下端筋の位置が適切か確認する。

定着・重ね継手

- ・ 定着の長さ、定着方法（はり、隣接スラブ、段差スラブ）を確認する。
- ・ 片持ちスラブの上端筋の位置が適切か、定着長さが確保されているか確認する。
- ・ 継手の位置と継手の長さが適切か確認する。

補強筋等

- ・ 床スラブの出入り隅部、開口部、階段部配筋、定着、補強筋が適切か確認する。

壁

壁筋

- ・ 壁筋リストで厚さ、径、間隔等を確認する。
- ・ 壁筋の定着長さ、定着方法、継手位置、継手長さを確認する。
- ・ 壁の開口部については、仕様書のとおり補強筋の施工がなされているか確認する。
- ・ 伏図または軸組図等でスリットの位置、施工方法が適切か確認する。

その他

設備配管等

- ・ 配線管等の位置が集中することなく、適切に施工されているか確認する。

ガス圧接継手

- ・ ガス圧接継手については、圧接部の欠陥の有無、形状を目視により確認する。

特殊鉄筋継手

- ・ 特殊な鉄筋継手については、認定番号、仕様等を確認する。